

平成 26 年度 離島漁業再生支援交付金による取組概要

1. 集落協定の概要

都道県名: 鹿児島県
市町村名: 南種子町
「種子島」
協定締結集落名: 南種子集落
交付金額: 7,752千円
協定参加世帯数: 57人(うち漁業世帯57人)

2. 協定締結の経緯

南種子町は3方を海に囲まれ優良な漁場が多く、これまで漁業世帯個々が海域環境の管理を行っている現状にあったが、近年水産資源の減少や魚価の低迷、また漁業者の減少や高齢化等の課題を抱えているため、水産資源の豊富な優良漁場の形成や、魚価の安定化を図ることなどを目指して、離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

近年、魚介類の漁獲量が減少している状況のため、カナコ籠・イカ柴の投入によるイカの産卵場・育成場の整備や藻場増殖プレート設置・移設により藻場の再生やサメ駆除・漁場監視など資源管理等漁場の生産力の向上に関する取組を実施することにより、地域漁業の活性化を図ることを目指して離島交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

また、海岸に流木・ロープ等のごみが漂着し、海岸線の環境が悪化しているため、15ヶ浦の海岸清掃を行い環境保全に努めた。

②集落の創意工夫を活かした新たな取組状況

今後の漁具漁法の普及を図るため、「メカジキ漁」「雑魚カゴ漁業」の操業を昨年に引き続き実施した。本年度においては、新たな漁法の模索・資源調査として「小型底曳網漁」の試験操業を実施した。南種子町漁業協同組合主催の「お魚祭」にて協賛として参加し魚食普及活動を行った。その他市場開拓事業により、魚の流通・鮮度保持等について研修を行った。

4. 取組の成果

①漁場の生産力の向上に関する取組の成果

イカの産卵場・育成場の整備事業については、前年度投入したカナコ網の引き上げを行ったところ、産卵の痕跡が多数みられた。

藻場増殖プレート設置については、昨年同様、広田浦の沖合に500枚のアミノ酸入りプレートを設置し、昨年設置したプレートを牛野浦港内に移設設置した。今後の藻場増殖・再生に期待ができるものと思われる。

サメ駆除については、集団駆除を5箇所において、9月に2日間、10月に1日間、11月に3日間実施し、買上げを含め、合計209匹のサメを駆除した。なお、買取価格

については尾びれ 30 cm未満は 1,000 円/匹, 30 cm以上 50 cm未満は 3,000 円/匹, 50 cm以上とマオナガについては, 5,000 円/匹と定めた。駆除後, 数日間はサメによる被害がなかったことから, 定期的を実施して漁場の保全を行うことにより, 生産力向上に繋げることができた。

漁場監視作業では, 現場で会った住民等に積極的に密漁禁止のことを PR することで, 密漁者の減少につながることもできた。

海岸清掃については, 漁協組合員等にも声かけを行なって実施し, 海岸の環境保全に努めた。

②集落の創意工夫を生かした取組の成果

メカジキ漁操業については, 計4回の操業を行った結果, エサを取られることなどはあったが, 釣果はなかった。漁具の見直しや操業時期など検討が必要である。

雑魚カゴについては, 計4回の操業を行った。カゴの出入り口の改良や時期をずらしての操業を行ったが, 思うような結果は得られなかった。

小型底曳網試験操業については, 小型機船をチャーターし, 浜田浦沖合から広田浦沖合 にかけて, 2日間操業したが, 小型のカレイが約30匹, 甲イカ3匹と思うような結果は得られなかった。

市場開拓については, 北九州市の株式会社ナノクス・丸福水産株式会社にてナノパブル発生装置(商品名:ナノフレッシュ)について研修を行った。装置を導入できれば, 魚の鮮度保持を行い魚価の安定化を図る事が期待できるとともに, 安定供給も行えるものと期待ができる。鹿児島市の鹿児島県漁連では意見交換を行い, 今後の魚価安定について協議を行った。また, 株式会社山口水産においては, 自社の保有するブライン凍結機を無償リースし, 南種子において一次加工(三枚おろし後, 真空パックしたのちブライン凍結)をしたものを市場値より付加価値をつけて買い取ることで, 今後, 加工に関する人件費・商品輸送の方法など検討し, 魚価の付加価値・安定供給に期待できる。また, 近年は消費者における安心・安全を求めるニーズが高いため, 生産者・販売者が協力し合いながら南種子産の魚をブランドとし販路拡大に繋げていきたい旨も話し合った。

漁協との協賛で魚食普及を図るため, アサヒガニ味噌汁の提供と子供たち主とした魚のつかみ取りを実施した。アサヒガニのおいしさを知らせることや子供たちが魚と触れ合うことにより, 今後における町内や島内での消費拡大につなげることができた。

色々な話し合いや取り組み方法について再度検証し, 今後活用していけるものと期待が持てる。